

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	つばめ療育館親子館		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2024年 12月 9日		2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常勤の作業療法士がいること。	作業療法士による身体評価を反映させる個別支援計画を作成している。	更に専門性の高い作業療法士の育成のため、研修に積極的に参加させる。そのために、研修費の補助や代休の取得などの体制整備を強化する。 課題の時間には作業療法士が介入し、課題の変更や修正を行っていく。
2	身体調和支援を取り入れて支援していること。	発達支援コンサルタント主催の専門研修は順次受講し、修了者は再受講を行っている。	技術研鑽のため、定期的な更新研修の受講を継続する。
3	HUGシステムを利用し、利用当日の様子を分かりやすく伝えられていること。	写真を含め利用時の様子を伝えている。取り組み姿勢や表情なども伝えることで、一人で通所していても安心していただけるようにしている。	今後も写真を含めた記録を取ることで、保護者にも安心して利用を継続していただけるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を行い事業所を利用していただくことが多いため、支援以外の活動のお知らせが十分周知されていないこと。また、その連絡手段が少ないこと（HUGアプリでのお知らせが中心になっている）。	アプリ上の記録やお知らせの配信を見ていただける方とそうでない方がおられるため。	利用開始前にアプリのインストールや活用について、より詳しくお伝えするほか、現在のご利用児にもさらに活用していただけるよう、個別に働きかけていく。
2	小集団での活動が主体のため、より個別での支援が適したご利用児への配慮が難しいこと。	支援室の物理的な環境制限（個室の数）があるため。	来年度は個別支援を重視する体制に変更する。支援室の環境もパーテーションを活用し環境構成を改善する。
3	プログラムが固定化されやすい。	身体調和支援、運動（感覚統合）、課題の3つの柱で支援が構成されていることや、変化を確認するために活動が平板化している可能性がある。	変化を見るための活動設定は必要なので継続するが、似たような感覚運動経験を別の活動でも取り入れられないか、常に検討する。